

平成26年度 国立江田島青少年交流の家教育事業

カッターズキャンプ実施報告書

- 【趣 旨】 日常では味わうことのできない体験を通じて、自然を身近に体感させる。また、多くの人と共に生活する中で、積極性や思いやりの心を育て、新しい自分を発見できるようにする。
- 【主 催】 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立江田島青少年交流の家
青年ボランティアグループ「カッターズ」
- 【後 援】 広島県教育委員会、広島市教育委員会、呉市教育委員会、江田島市教育委員会
- 【期 日】 (1) 春キャンプ
平成26年6月7日(土)～8日(日) (1泊2日)
(2) 夏キャンプ
平成26年8月9日(土)～12日(火) (3泊4日)
(3) 秋キャンプ
平成26年10月11日(土)～12日(日) (1泊2日)
(4) 冬キャンプ
平成26年12月23日(火)～25日(木) (2泊3日)
- 【会 場】 国立江田島青少年交流の家
- 【対 象】 小学校4年生から中学校3年生
- 【参加者数】 (1) 春キャンプ 58人
(2) 夏キャンプ ※台風の接近が予想されたため中止した。
(3) 秋キャンプ 59人
(4) 冬キャンプ 71人
延べ188人

【企画・運営のポイント】

- (1) 青年ボランティアグループ「カッターズ」スタッフ(以下、「スタッフ」という。)が毎週行うミーティング内容やフォローアップセミナーで学んだことを生かせるキャンプにする。
- (2) 年4回開催し、当交流の家がもつ豊かな自然環境を生かし、季節を感じられるプログラムを組む。
- (3) 参加者は、できるだけ異学年で男女のバランスの良いグループ構成にし、グループ内でそれぞれに役割を割り当て、責任をもって活動ができるようにする。
- (4) 参加者の興味を引くために、開会セレモニーで始まり、多彩なプログラムを取り入れ、閉会セレモニーでキャンプを締めくくるというストーリー性のあるキャンプ構成にする。
- (5) 各プログラムにおいて、参加者の安全の確保をスタッフ全員で取り組む。

【活動の実際】

(1) 春キャンプ

平成26年6月7日（土）～8日（日） （1泊2日）

6月7日（土）	6月8日（日）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 開会セレモニー ・ レクリエーション ・ スポーツ ・ 野外炊事 	<ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーリング ・ 閉会セレモニー

- ・ 開会セレモニーでは、初めて参加した子ども自己紹介やゲームを通して、すぐに打ち解け、班のメンバーを中心に仲良くなっていた。スタッフの中にも、初めて子供たちと接する者がいたが、皆気さくに接し、明るい雰囲気をつくることができていた。
- ・ 野外炊事では炊き込みご飯とロールキャベツを作った。子供たちが役割を自覚し、協力することをねらって野外炊事を計画した。スタッフはよく子供に関わって、安全も確保できた。
- ・ 班のメンバーの関係をより確かなものにするため、オリエンテーリングを計画した。盛んに意見の交換をしながらチェックポイントを回る場面を見かけた。
- ・ 閉会セレモニーは、楽しみながら2日間を振り返ることができるものに工夫した。セレモニー後は、歌を歌って別れを惜しんだ。



レクリエーション／スポーツ



野外炊事



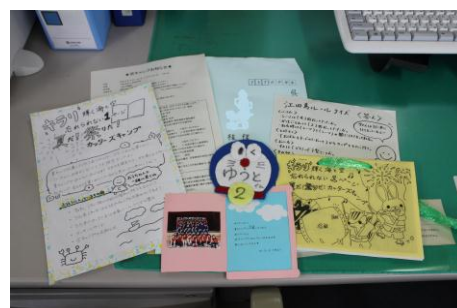
閉会セレモニー

(2) 夏キャンプ ※台風の接近が予想されたため中止した。表は、予定していた内容。

平成26年8月9日（土）～12日（火） （3泊4日）

8月9日（土）	8月10日（日）	8月11日（月）	8月12日（火）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 開会セレモニー ・ 昼食（レストラン） ・ レクリエーション ・ 夕食（野外炊事） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝食（レストラン） ・ 海水浴 ・ 昼食（お弁当） ・ クラフト ・ 夕食（レストラン） ・ ナイトウォーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝食（野外炊事） ・ スポーツ ・ 昼食（バーベキュー） ・ おまつり ・ 夕食（レストラン） ・ キャンプファイアー 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝食（レストラン） ・ オリエンテーリング ・ 昼食（お弁当） ・ 閉会セレモニー

- ・ スタッフも参加者も大変楽しみにしていたが、止むなく中止とした。後日、スタッフから連絡があり、参加する予定だった子供たちに、せめて手紙や配付するはずだった物を送りたいという申し出があった。キャンプに参加する子供たちは、リピーターが多く、スタッフとのつながりが強い。スタッフもそれを大切にしていることが、よく分かる出来事だった。



スタッフが送った物

(3) 秋キャンプ

平成26年10月11日(土)～12日(日) (1泊2日)

10月11日(土)	10月12日(日)
・開会セレモニー ・昼食(レストラン) ・レクリエーションとスポーツ ・夕食(野外炊事)	・朝食(レストラン) ・オリエンテーリングと水晶山登山 ・昼食(お弁当) ・閉会セレモニー

- ・ 秋を身近に感じられるプログラムになるよう心がけた。野外炊事では、秋を感じられるように、かぼちゃとさつまいもを使ったメニューにした。各班がそれぞれ協力して作り、多少失敗しても楽しく食べることができた。また、2日目にオリエンテーリングと水晶山登山を合わせたプログラムを企画した。コースを回る中で、落ち葉やどんぐり、枝などを拾ってくる参加者が多く、秋を感じた参加者が多かった。



開会セレモニー



野外炊事



オリエンテーリングと水晶山登山

(4) 冬キャンプ

平成26年12月23日(火)～25日(木) (2泊3日)

12月23日(火)	12月24日(水)	12月25日(木)
開会セレモニー 昼食(レストラン) レクリエーションとスポーツ 自由時間 夕食(レストラン) ナイトウォーク	朝食(レストラン) クラフト 昼食(野外炊事) サイクリング 夕食(炊き出し) キャンドルのつどい	朝食(野外炊事) 閉会セレモニー① 昼食(レストラン) 閉会セレモニー②

- ・ クリスマスを意識したプログラムにした。キャンプの中でクリスマスの歌を歌ったり、クリスマスをイメージさせるようなゲームをしたり、キャンドルのつどいをしたりして、雰囲気づくりをした。炊出しでは鳥の丸焼きを作り、みんなで分け合って食べた。寒さに負けない明るい笑顔がたくさん見られた。
- ・ 今回も、再開を約束し合う参加者とスタッフの姿や、送りのバスが見えなくなるまで見送るスタッフの姿が見られた。



ナイトウォーク



キャンドルのつどい



参加者を見送るスタッフ

【成果】

- (1) 事前のミーティングやフォローアップセミナーを通して、キャンプ中のプログラムや参加者に対する共通理解が深まり、キャンプに十分備えることができた。
- (2) オリエンテーリング、海水浴、登山など、当交流の家の季節に合った活動プログラムを取り入れたことで、参加者の興味をひき、自然を十分味わうことができた。また、各プログラムの様々な工夫に対する参加者の満足度も高かった。
- (3) 異学年の仲間と一緒に寝食をともにし、新しい友達を得たことで、参加者には、互いを思いやり、相手を理解しようとする態度が育った。また、スタッフが初めて参加する子供たちにしっかり声かけをしたり、レクリエーションやゲームで楽しい雰囲気を早い段階でつくったりしたことは、その後のプログラムをスムーズに進める要因となった。また、年齢も参加者に近いいため、参加者が気楽に話しかけたり相談できたりしたことで、参加者の不安を取り除くことができた。
- (4) ストーリー性のあるキャンプ構成により、参加者は戸惑うことなくスムーズに人間関係をつくることができ、感動をもってキャンプを終了することができた。
- (5) スタッフの人数が多く、参加者をしっかりと見守ることができ、安全にキャンプを行うことができた。

【今後の課題】

- (1) スタッフのミーティングやフォローアップセミナーとは別に、事業のねらいやプログラムの意図などについてお互いの意思を交流し、キャンプの目的や目的達成のための考えなどを共有することで、参加者にとってもスタッフにとっても、より有意義なキャンプにしていく。
- (2) 保護者アンケートでは、キャンプを通して積極性が出てきたという意見がある一方で、公共性や思いやりに関する期待があることもうかがえたので、参加者の成長を意識したプログラムや成長を保護者に伝えるための改善策を考えていく。